



# アグレッシブクライアントロードバランシング

- [アグレッシブクライアントロードバランシングに関する情報 \(1 ページ\)](#)
- [アグレッシブクライアントロードバランシングの有効化 \(GUI\) \(2 ページ\)](#)
- [アグレッシブクライアントロードバランシングの設定 \(GUI\) \(2 ページ\)](#)
- [アグレッシブクライアントロードバランシングの設定 \(CLI\) \(3 ページ\)](#)

## アグレッシブクライアントロードバランシングに関する情報

アグレッシブクライアントロードバランシング機能を使用すると、ワイヤレスクライアントの負荷を Lightweight アクセスポイント間で分散できます。

ワイヤレスクライアントが Lightweight アクセスポイントへのアソシエートを試みると、アソシエートされた応答パケットとともに 802.11 応答パケットがクライアントに送信されます。この 802.11 応答パケットの中にステータスコード 17 があります。このコード 17 は AP がビジー状態であることを示します。AP のしきい値に達成しなければ、AP からは「success」を示す応答は返りません。AP 使用率のしきい値を超えると、コード 17 (AP ビジー) が返り、処理能力に余裕がある別の AP がクライアント要求を受け取ります。

たとえば、AP1 上のクライアント数が、AP2 のクライアント数とロードバランシングウィンドウを上回っている場合は、AP1 の負荷は AP2 よりも高いと判断されます。クライアントは、AP1 にアソシエートしようとするときに、ステータスコード 17 が含まれている 802.11 応答パケットを受け取ります。アクセスポイントの負荷が高いことがこのステータスコードからわかるので、クライアントは別のアクセスポイントへのアソシエーションを試みます。

組み込みワイヤレスコントローラは、クライアントアソシエーションを 10 回まで拒否するように設定できます (クライアントがアソシエーションを 11 回試みた場合は、11 回目の試行時にアソシエーションが許可されます)。また、特定の WLAN 上でロードバランシングを有効にするか、無効にするかも指定できます。これは、特定のクライアントグループ (遅延に敏感な音声クライアントなど) に対してロードバランシングを無効にする場合に便利です。



- (注) 300 ミリ秒を超えて遅延を設定すると、音声クライアントは認証しません。これを避けるには、中央認証 (Cisco Centralized Key Management (CCKM) による WLAN のローカルスイッチング) を設定し、AP と WLC 間に遅延 600 ms (UP と DOWN それぞれ 300 ms) の pagent ルータを設定して、音声クライアントのアソシエートを試みます。



- (注) FlexConnect AP の場合は、アソシエーションがローカルに処理されます。ロードバランシングの判断は、コントローラで行われます。FlexConnect AP は、コントローラでの計算結果を確認する前に、最初の応答をクライアントに送信します。FlexConnect AP がスタンドアロンモードの場合は、ロードバランシングが適用されません。

FlexConnect AP は、ローカルモードの AP と同様のロードバランシング用のステータス 17 で (再) アソシエーション応答を送信しません。代わりに、ステータス 0 (成功) で (再) アソシエーションを送信してから、理由 5 で認証解除を送信します。

## アグレッシブクライアントロードバランシングの有効化 (GUI)

### 手順

- ステップ 1 [Configuration] > [Wireless] > [WLANs] > [Wireless Networks] の順に選択します。
- ステップ 2 [WLAN] を選択して、[Edit WLAN] ウィンドウを表示します。
- ステップ 3 [Advanced] タブをクリックします。
- ステップ 4 [Load Balance] チェックボックスをオンにして機能を有効にします。
- ステップ 5 [Update & Apply to Device] をクリックします。

## アグレッシブクライアントロードバランシングの設定 (GUI)

### 手順

- ステップ 1 [Configuration] > [Wireless] > [Advanced] を選択します。

[Load Balancing] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** [Aggressive Load Balancing Window (clients)] フィールドに、アグレッシブ ロードバランシングクライアント ウィンドウのクライアント数を入力します。
- ステップ 3** [Aggressive Load Balancing Denial Count] フィールドに、ロードバランシングの拒否カウントを入力します。
- ステップ 4** [Apply] をクリックします。

## アグレッシブクライアント ロードバランシングの設定 (CLI)

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： デバイス# <b>enable</b>	特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： デバイス# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<b>wlan wlan-name</b> 例： デバイス (config)# <b>wlan test-wlan</b>	WLAN 名を指定します。
ステップ 4	<b>shutdown</b> 例： デバイス (config-wlan)# <b>shutdown</b>	WLAN をディセーブルにします。
ステップ 5	<b>load-balance</b> 例： デバイス (config-wlan)# <b>load-balance</b>	特定の WLAN へのクライアントロードバランスを有効にするために、ゲスト組み込みワイヤレスコントローラをモビリティコントローラとして設定します。  WLAN の要件として WLAN のセキュリティ設定を設定します。
ステップ 6	<b>no shutdown</b> 例：	WLAN を有効にします。

	コマンドまたはアクション	目的
	デバイス (config-wlan) # <b>no shutdown</b>	
ステップ 7	<b>end</b> 例： デバイス (config) # <b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。また、Ctrl+Z キーを押しても、グローバル コンフィギュレーションモードを終了できます。
ステップ 8	<b>configure terminal</b> 例： デバイス # <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 9	<b>ap dot11</b> {24ghz   5ghz} <b>load-balancingdenialcount</b> 例： Device (config) # <b>ap dot11 5ghz</b> <b>load-balancing denial 10</b>	ロードバランシングの拒否数を設定します。
ステップ 10	<b>ap dot11</b> {24ghz   5ghz} <b>load-balancingwindow</b> クライアント 例： Device (config) # <b>ap dot11 5ghz</b> <b>load-balancing denial 10</b>	アグレッシブロードバランシングクライアントウィンドウのクライアント数を設定します。
ステップ 11	<b>end</b> 例： デバイス (config-wlan) # <b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 12	<b>show running-config   section wlan-name</b> 例： デバイス # <b>show running-config   section test-wlan</b>	現在の設定のフィルタリングされたセクションを表示します。

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。